性にして、企業誘致、新規就農、観光・移住政策を一体的に進めるべきではないか。

高薄町長

ふるさとブランド十勝清水ということで、86品目を町の推奨品としており、直売所については、商工会やＪＡと協議してきたが人の配置が問題で、直売所そのものは必要なため、積極的にやらなければならない。

町内でのパーラー排水処理は浸透桝処理が大半で、機器を入れての処理は3戸と少なく、機器が非常に高価で、すぐに対応できない状況を国へぶつけていきたい。

交渉している企業にはクリーンな生産の希望を持っており、農村地区の景観環境がきれいになれば、本町で農業をやりたい人も出てくると思い、観光と絡めたグリーンツーリズムの検討も含め、新しい農業の方向性を関係機関と詰めなければならない。

魅力的で活力のある農業とは

奥秋康子議員

品目横断的経営安定対策が導入されて、初めて収穫期を終えたが、努力をしても報われない制度に直撃を受けたのが畑作専業農家である。

①この制度による清水町の影響額は。大型化してきた専業農家も、このままではもう持ちこたえられないと不安を抱いている。

②本町の基幹産業である農業の方向性は。輸入に頼る現在の食糧事情は、たくさんの問題を抱えている。

③オーガニック農業に転換することが求められている。その指導体制と人材育成を図るべきでは。

高薄町長

①本町の影響は、ＪＡの試算だが全体で3億9000万円の減収。1戸平均で180万円の減収になる。

平成19年度から、大豆など5品目に品目横断的経営安定対策が導入された

②今後の畑作農業の進むべき基本的な考えとして、消費者は新鮮な野菜を求めており、野菜作付面積を拡大し、更に安心安全のため、有機栽培を推進しなければならない。

③農業者の皆さんと協議し、普及センター、農協、三者一体となって検討していきたい。

新たな人事管理制度の導入を

奥秋康子議員

現在、管理職の昇格は、年功序列的な昇格制度であると理解している。年功序列の昇格制度では、意欲ある職員の意欲をそぎ、能力ある職員の目を摘むことにもなりかねないと思うが。

①管理職昇任試験の導入を。管理職に必要な能力、資質、意欲と責任感のあるものが、自ら管理職の昇任に手を挙げ、試験の合格者を管理職に登用する。

②希望降格制度の導入を。さまざまな事情により職責を果たすことが困難と感じる場合、降格を申し出る。

高薄町長

行財政改革計画のなかで、人事考課、自己申告制度、管理職登用試験制度、希望降格制度を取り入れる内部改革を目指しており、管理職登用試験制度と希望降格制度はセットで行うもので、平成20年度中に進めたい。

平成20年度町政執行方針

安田　薫議員

新しい商品やサービスの開発・販売を加速させるため、ＪＡ、商工会、行政が具体的、活発な動きを見せる時ではないか。ＪＡ主体事業の「有機肥料及び堆肥製造施設」は、生産物、加工品にブランドをつけるためには良い事業である。町として全面的に支援すべきで、数年間、固定資産税の減免とか、消費者の皆さんにも協力をいただくことが必要と考えるがいかがか。

執行方針で述べられていた管内市町村との連携であるが、特に隣町とは積極的な交流対話が必要と考えるがいかがか。

高薄町長

本町の土壌をどのように改良していくか議論され、結果としてこういう計画になり、有機肥料の利用促進、生産物の販売促進など、地域ブランド化に向けて支援しなければならない。税については、どのような支援策が取れるのか検討していきたい。

西十勝ということでは、消防行政、介護保険行政が共同で行われており、行政全般については行われていない。首長同士では話合いをしようとなっているが、日程が取れない状況で、今後しなければならない。

議会豆知識

「エコファーマー」

エコファーマーとは、土づくり・減化学肥料・減化学農薬に一体的に取り組む農業認定者の愛称。エコファーマーが取り組む3つの技術は、環境に配慮しつつ生産力を維持・増進することができる農法といわれています。

「オーガニック農業」

植物に直接肥料を与えない（大地の生命活動が作り出す栄養分を植物が吸い上げる）、危険な化学物質（農薬）を用いない、遺伝子操作を行わない。この3つを踏まえた農業がオーガニック農業です。